



Chocolat 通信

2014年 3月号

ショコラと私

今月は「ショコラと私」特集号です
先生方にも書いて
いただきました。

神尾昇先生

第5回

カット：黒岩 良

ショコラの、団創立当初からのメンバーと言えば、佐々木団長、阿部さん、そして私だけになってしまいました。他の合唱団でもそうですが、10年も経つとメンバーの入れ替えが進むものです。そうなるとなぜ「ショコラ」なのか由来を知らない人も多いことでしょう。それは今はもういない団員の方が、個人的に玉置浩二が好きで、当時流行っていた歌が「ショコラ」だったからです。たったそれだけの理由でつけられたわけですが、おかげで、何となく男性が入りにくい印象になってしまいました。しかしその頃はまだ安全地帯も解散していませんでしたし、雅子さまが飼っている犬が「ショコラ」ということもありました。つまり歴史を証明する団名でもあるのです。そんな「ショコラ」に10年も関わって来た訳ですが、これからは私自身もそうですが、どういう10年を送ることになるのか、楽しみでもありますが、不安でもあります(笑)

(Noboru Kamio)



赤司美苗先生

ちょうど8年前、大学卒業直後の私は、あるお仕事で一緒していた合唱指揮の先生に「僕が指導しているいくつかの合唱団で伴奏をお願いするかもしれない」というお話を戴いた。卒業後、街の音楽教室でのピアノ講師という道しか決まっていなかった私には、不確定とはいえとても有難いお話であった。やがてそのお話が正式に決まった6月の末、私はある小さな合唱団の練習に連れて行かれた。三栄町というところだった。べらぼうに緊張していた私をととても温かく迎え入れていただいた事を覚えている。それから6年後、私は出産の為にその合唱団を一度離れた。初めて自分が伴奏をしていないその団体の演奏を聴いた。団員は最初の時の倍近くに増えていた。レベルも着実に上がっている。それでもあの最初の、三栄町で感じた温かさの面影は残っていた。生まれも育ちも年齢も違う色々な人が出入りしているのに、そこには団体としての個性が確実にあった。目を見開いた。



10周年コンサートまで
あと65日!

みなさん!後2ヶ月です!
カウントダウンも真剣味を
帯びてきましたね。



T 佐々木晋

ショコラ結成から今年で10年が経過し、ショコラの前身となる団体から合唱を始めた私の合唱歴も10年を越えたこととなります。今やショコラでの合唱が生活の一部のようになっていますが、自分の中での初期の新鮮さや感動が薄れてしまっていないだろうかと危惧しています。最初の合唱での感動は他の人の声が自分の声と体の中で共鳴し、それをエネルギーにして声を出す作業がこの上なく新鮮で楽しいということでした。そして、色々な人に合唱を通じて出会える感動も大切なことです。何事も慣れてきてそれなりに上手く出来てくると、初期の感動や目的を忘れて道を失いがち。そこで思い出すのは「初心忘れるべからず」。これは世阿弥の言葉で、本来の意味は「初心者の頃のみっともなさ・未熟さ」を折にふれて思い出すことにより「あの未熟な状態には戻りたくない」と思い、さらに精進できるということなのだそうです。ショコラでの初心を忘れず精進したいと思います。



S 小久保武子

苦手な学科からはずっと逃げてきた。大人になって学校の勉強から解放されたとき思った。苦手だったものをやってみようかと。その一つが音楽。リタイア後、ある人に見学だけでもと誘われてショコラの稽古場に行ってみた。今から8年ほど前の話。忘れもしない「花に寄せて」の練習中だった。団員は10人にも満たなかったが生き生きしていた。若い指揮者(神尾先生)からポンポンと注意が飛ぶ。ここはスポコン風に、ハミングは歌詞がない分なおさら表情が大切、デクレッシェンド・クレッシェンドが繋がっている箇所はF1が傍を通過するイメージ、不協和音は嫁と姑の対決等々。ボキャブラリーが豊富でユーモアに富み、軽い皮肉やひやかしも喩えが余りに適切なので団員と一緒に私もゲラゲラ。コーラスってなんだか面白そう!という気分になってきた。これも出会いだ!と即入団。後から苦労した。今も苦労している。動機が見当外れなのだから当然。でも合唱は一人ではない、と開き直った後から面白さが付いてきた。



B 古川智久

ショコラとの出会いは、社会人になってまもなく、社内報の新入社員紹介に、「趣味:合唱」と書いたのがきっかけでした。

数日もたたないうちに、先輩である佐々木団長と竹花さんから食事に誘われ、その場で早速楽譜を渡され、次の練習日には参加して入団…と、気付けばショコラの一員になっていました。

高校、大学と合唱部でしたが、近い年代だけでの集まりだったため、色々な年代や職業の方々が集まるショコラ環境は新鮮でした。また、他の団体でコンサートに参加するときにも聴きに来ていただいたり、合唱仲間が増えたのも嬉しかったです。

まだまだ若輩者ですが、ショコラは、もっと上手になれる合唱団だと思っています。「楽しさはそのまま、やるときはやる」団体を目指して頑張りましょう!

